

高野山印刷産業人納骨塔奉讃会
慰霊祭・追悼法要を厳修



高野山印刷産業人納骨塔奉讃会(作道孝行会長)主催(協賛:大阪印刷関連団体協議会)による恒例の「新物故者慰霊祭並びに納骨者・業界物故者追悼法要」が8月19日、高野山大霊園 大阪印刷産業人物故者納骨塔前において厳修された。関連団体代表者をはじめ、遺族、一般参拝者など、およそ140名が参拝に訪れ、納骨塔内で安らかに鎮まる故人の冥福を祈るとともに、遺族の安泰と印刷・関連業界の加護を祈願した。

午前11時30分より蓮華院の東山泰清大僧正を導師として高僧4名を迎えて前讀、散華と法要は進められ、続いて作道会長が新物故者慰霊並びに納骨者追悼の辞を読み上げた。

また作道会長は、「納骨塔は建立されて44年。昨年は皆様の浄財で排水処理を含めた補修工事を行ったが、今後も細かな修理はもとより、全体の大修理もいずれ必要になる」とし、浄財としてより一層のお供え、寄付への協力を呼びかけた。

本年度慰霊祭の新物故者は、関連業界から9名で、90歳代の方が4名、80歳代の方が3名、70歳代の方が2名おられ、ご長寿での活躍が偲ばれる。

川面を眺めながらのビアパーティ
80名が親睦深める

近畿印刷産業機材協同組合(坂本進理事長)は8月25日、大阪・中央区の大阪キャッスルホテルにおいて恒例の交流ビアパーティを開催。組合員及び組合員企業の従業員らおよそ80名が出席し、親睦を深めた。

午後6時、坂本理事長が声高らかに乾杯を発声。会場では、夏の夕暮れに映える大川の川面を眺めながら、ビール片手に組

合員企業の従業員同士が歓談する場面も見られ、和やかなムードのもと、参加者は暑い夏の夜のひとときを楽しんだ。



恒例のゴルフコンペ
優勝は佐土剛氏(コスモテック)

組合員交流の場として恒例となった「ゴルフコンペ」が10月18日、奈良の飛鳥カンツリー倶楽部において開催され、13名が参加した。

競技方法はダブルベリア。優勝は、(株)コスモテックの佐土剛氏(OUT57、IN48、GROSS105、HDPC33.2、NET71.8)で、ベストGROSSには、エステック(株)の菅幸男氏が輝いた。



▲優勝の佐土氏(左)

古希以上の長寿を祝う
大阪天満宮で「長寿会」

大阪印刷関連団体協議会(作道孝行会長)の秋季恒例行事「長寿会」が11月2日、都島区の太閤園で開催された。

第50回を迎えた今回は、近年の会場となっている大阪天満宮に隣接する懇親会会場の相生楼が改築工事を施しているため太閤園に変更され、2階「オーキッドテラス」において長寿を祈願する神事が執り行われた後、記念撮影、懇親会と続いた。



開宴に先立ち作道会長は、半世紀を迎えた会の重みと、近年の厳しい業界、経営環境を説明した上で「激変する環境変化への対応を強いられているが、一方では企業の理念や創業時から培ったことなど、守っていくべきこともある。本日は経験豊かな諸先輩方とお話できることを大変嬉しく思う。今後の方向性を考える上の糧としたい。これからもご健康でご活躍されますように」と、改めて感謝の意を述べた。

このあと、参加者を代表して秋丸豊氏(新星印刷)から御礼の言葉が述べられ開宴。宴半ばでは、関西を中心に海外の舞台でも活躍する津軽三味線内田流師範の大黒恵子氏による秋田大黒舞、代表的な民謡メドレーに続いて「津軽じょんがら節」などが披露され、和やかな雰囲気にもまれた会場で参加者は歓談のひと時を過ごした。

大印工組(協賛:大阪印関連)
新春会員交流大会に520名



大阪府印刷工業組合(作道孝行理事長)は1月12日、太閤園において平成30年新春会員交流大会(協賛:大阪印刷関連団体協議会)を開催し、520名が参加した。

年頭挨拶に立った作道理事長は、「世の中の変化に合わせて、自らも変化していく必要がある。また単に変化するのではなく、求められる変化をしていかなければならない。そのために必要となってくるのがアライアンスだ」と述べ、そのための積極的な組合の活用を求めた。

会場では、まぐろ解体ショーや和楽器演奏などのアトラクションも行われ、随所で歓談風景が繰り広げられた。